



激務が慣例化していた アパレル業界で、 自分の時間を大切に仕事ができます。

株式会社ズーム 西川 奈穂さん

株式会社ズーム

秋田県大館市に工場を持ち、カットソーから布帛（織物製品）まで幅広いアイテムを小ロット対応でOEM生産しています。パターン製作をはじめ生地や付属の手配、裁断、縫製、仕上げから納品まで一貫したサービス体制を整えています。2014年10月からオリジナルブランドICHORA（イチョウウラ）を展開。2016年3月にはJR両国駅前に直営店をオープンしました。

代表者名：加々村 義廣
住 所：〒130-0021 東京都墨田区緑2-13-20
従業員数：36名（うち女性31名）※平成30年8月末現在
設 立 年：昭和55年9月創業
電 話：03-5625-6699
ホームページ：<http://www.zoomproject.co.jp>
<http://ichora.jp>

——就職のきっかけについて
教えてください。

当社を初めて知ったのは「F・C・Link」というファッション系専門学校を卒業した人向けの求人サイトを見たときです。デザイナーアシスタントの募集でした。卒業した文化服装学院ではパターン型紙製作の勉強をしましたが、パターンナーとして専門的に働くのではなく、商品の企画や販売にも携わってみたいと思っていました。オリジナルブランドを立ち上げて間もない当社なら、そんな希望が叶うかもしれないと感じて応募しました。

——今ほどのお仕事をしていますか？

自社ブランド「ICHORA（イチョウウラ）」の商品を企画し、デザインすることがメインの仕事です。デザインからパターンに起こす作業ひとつとっても、専門学校で教わった理論的なものとは違って最初は苦労しました。実際にお客様の前で商品が、なぜこの形にするのかを深く考えながら型紙をつくる必要があったんです。商品の企画から販売までには、多くの方が関わってきます。特に、製造を外注する場合、デザイナーの意図を伝えるのは難しいです。トラルのものにならないように仕様書は細かく書き込み「自分が注文を受ける側だから」という視点で書き直すこともあります。

——働いていてやりがいを感じる瞬間はありますか？

入社して間もない頃は、自分が企画した商品が工場であつちやうに光景がやりがいを感じました。最近は、商品が実際に売れていくことに一番やりがいを感じます。私も週に



度「ICHORA」の店舗に立ち回って、お客様と顔を合わせる機会があります。デザイナーとして商品の説明をすることもあり、パターンへのこだわり、素材や縫製のごだわりを気に入って買ってくださると嬉しいです。

——職場の働きやすさについて教えてください。

なるべく定時で帰ろうという雰囲気があります。アパレル業界の中で、定時を意識して働ける会社はまだ少ないと思います。勤務時間が決まっていると仕事に集中できますし、真面目なことを言う、自分の時間が充実すれば、この先の企画にも生き生きと頑張ります。あと、まだ入社して一年経っていない私の意見も真剣に受け止めてくれるので、自分も事業に関わっていることを実感できます。

Case

職場の雰囲気はアットホームで、加々村 義廣

務が入社したときにはもう行われていたのですが、社員の誕生日にはお祝いの歌を歌ってみんなでケーキを食べる文化があります笑。

——これから手がけたい仕事について教えてください。

「一番は「ICHORA」の服のデザインを高めていくこと、雑貨のセレクト力を上げていくことが目標です。個人的にはエシカルファッションに興味があります。地球環境や動物、人間にやさしいファッションのこと、例えばオーガニックや再利用された素材でつくられた服もそのひとつです。まだまだ知られていませんが、この先は「エシカル（倫理的）」かどうかを洋服選びの基準とする人も増えてくると思います。服を企画するときに素材の選び方などで実践してみたいです。

——墨田区に住んでいかがですか？

就職してから両国に住み始めたのですが、落ち着いた感じが好きです。実は、物件の内見にも社長が一緒に来てくれました（笑）。私はフロントでもしたいことがたくさんあって、両国にいると選択肢が多くてうれしいです。ヨカやボルダリングも近くにあり、入暮らして料理もするので、スパが多いのもいいです。大江戸線も便利で、立地の良さは魅力だと思います。銀座にも自転車道20分あれば行けますよ。

Boss's Voice 加々村 義廣



当社は、秋田県大館市の工場でカットソーから布帛まで幅広く製造しています。OEM生産を中心に、オリジナルのファクトリーブランド「ICHORA」を立ち上げています。現社長である加々村義廣がデザイナー出身で、その社長が起した工場なのでディテールが伝わりやすく、パターンの再現性が高いことが自慢です。

ちょうど西川さんが入社する少し前から、自分たちの働き方がかなり変えました。彼女も話していた通り、アパレルは深夜残業やサービス残業が当たり前という風潮がなかなか消えない業界ですが、労働環境が整っていないと、この先優秀な人材の採用は難しい。「働き方改革」が推奨されたことをきっかけに、求職者から選ばれる会社になろうという思いがありました。業務の効率化を進めるとともに、店舗専門スタッフを3名増やしたり、西川さんの力も加わったので、短時間で成果を挙げられるようになりました。今年も1名女性の社員を採用し、彼女はOEM部門で頑張ってくれています。西川さんは、自分をしっかり持っていて、誰に対しても臆さず意見を出してくれます。たとえば「販売促進のために店舗のカードつくりか」と問いかけると、販売促進という本来の目的を踏まえて「カードもいいけど、こんな方法もどうでしょうか」と提案してくれることがありがたいです。小さな会社なので、そういった提案がすごく大切なんです。

